



新年あけましておめでとうございます。今年も宜しく願い致します。

12月8 - 9日には全国清掃・物流よい仕事コンテストが千葉県流山市商工会議所で開催されました。すぐ近くにはセンター事業団発祥の地でもある旧東葛病院があり、病院の法人である東京勤労者医療会下正宗理事長にご挨拶をいただき、新東葛病院の視察もありました。私自身、22年前に入団した最初の配属先が東葛事業所であり、新病院に移っても以前からの仲間が働き続けていることを嬉しく思い、新たに松戸あじさい(継続就労支援B型)と連携し、多様な困難を抱える若い仲間と一緒に働いていることに驚きました。コンテストでも全国各地で、障がい者や高齢者など多様な組合員と共に働く実践が報告され、清掃・物流現場が改めて人間再生の現場だと実感することができました。優勝した広島北部では、組合員の想いに依拠した運営に立ち帰り、医療生協と共に介護予防サロンや子ども食堂や畑づくりなど多様な活動が生まれ、組合員一人ひとりの主体性が引き出された報告がされました。医療生協の担当者からも、医療生協の組合員活動の活性化や、多様な地域の方々と地域づくりに向かっていると感謝の言葉が寄せられています。

昨年より新たに協同労働で立ち上げたいという相談が毎月のように寄せられて

いますが、12月に長野の障がい児の母親が、子どもたちの居場所や図書室をボランティアで運営し、その実績を見込まれ多様な人が共に生活できるようにと新築アパート運営を任せられ、ボランティア団体から協同労働による法人を立ち上げたいと相談でありました。その際も障がいを抱えた人たちが高齢者宅のハウスクリーニングなど地域貢献できるような仕事できないかという検討がありました。

とちぎ労働福祉事業団の現場視察(12月20日)に行った際は、30年続く生協物流事業所で、自前で立ち上げた就労継続支援A型などを担うソーシャルファームの事業所と連携し、10名以上の障がい者と共に働いている実践や、地域の企業と連携し、毎年5名の就労を実現している現状を学びました。

北海道労協の臨時総代会義(12月15 - 16日)に参加した際は、人材不足で悩んでいた清掃現場が、仲間が応援で駆けつけてくれるなか、自分たちで仲間を支えられ、話し合っってよい仕事を追求できる働きやすい現場だということを発信した結果、4 - 5名の仲間が新たに加わったという報告があり、会場全体が元気になっている感じを受けました。

与党協同労働の法制化に関するワーキングチームが12月20日に年内最後の会議を開催し、法案骨子を確認するところまで来ました。元号も変わる新年度、法

制化の実現も近づいておりますが、改めて労協初期から取り組んできた清掃・物流・緑化事業が、多様な仲間集いお互い

の違いを認め合い補い合って働くことを通じて注目される、そんなことを予感される年末でありました。